

編集後記

先日、高校生対象に大学のオープンキャンパスが行なわれた。私が所属する研究室にも多くの高校生が訪れた。真夏の炎天下、汗を拭いながら熱心に説明を聞くものも少なくない。プラズマだ！核融合だ！強力レーザー光線だ！人工太陽だ！とたたみかける。実際に説明をしたのは研究室の精鋭達。なんとなく分かったような気になって、面白そうだと感じてもらう。ここが重要。さすが大学の工学研究科、夢があるな！ここへ来ればこんなことができるのか・・・と思ってもらえればしめたもの。プラズマ・核融合研究に従事する身としては、昨今の流行の外にあるという実情を踏まえ、ここぞとばかりPRする。さて、少し気になったことがある。中に母親、父親といっしょに来るものがあったことだ。自分たちが高校生のころは大学のオープンキャンパスなどなく、学園祭の時期を聞きつけて、勝手に大学の中に入り込み、うれしがっていた記憶がある。であるが、

親といっしょに大学をのぞいてみるというのは、少なくとも当時は考えられなかった。想像するに、親の方が熱心で、子どもを引っ張りまわしているのだろう。嫌がる子供を引っ張ってならまだわかるが、極自然に子供の大学受験に親がどっぷり参加している。自分の記憶では、高校生ぐらになれば親から自立したいと思ってわがままを言ったものだ。とは言うものの、かく言う我が家も同じようなもの。また、我々だって、その先達たちから見れば同じだったかもしれない。戦後、右肩上がりの経済成長の中、生活は豊かになり、飢え死にすることなどとっくになくなった。我々は精神的に子どものままでいても生活を営めるようになってきており、その傾向は益々強くなっているのだと思う。この飽食の時代に、エネルギー問題を訴えて行くことはやはり不利なのか？あるいはそういう時代だからむしろ可能なのか？複雑であると思っている。（近藤公伯）

プラズマ・核融合学会役員

会 長	高村 秀一	副 会 長	山中 龍彦 藤原 正巳	常務理事	岡村 昇一（総務委員長）
理 事	今井 剛 奥野 健二 佐藤浩之助 畠山 力三（企画委員長） 森 雅博		榎戸 武揚（広報委員長） 尾崎 章（財務委員長） 田中 和夫（プログラム委員長） 堀岡 一彦（広告委員長） 吉田 善章（編集委員長） 藤山 寛		岡野 邦彦（出版委員長） 際本 泰士 二宮 博正 松岡 啓介
監 事	長谷川 満				

プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディター 吉田善章（東大新領域）

エディター 岡子秀樹（九大）、関 昌弘（原研）、田中雅慶（核融合研）、西村博明（阪大）、福山 淳（京大）、藤山 寛（長崎大）
編集委員 荒巻光利（名大）、飯塚 哲（東北大）、岩尾 徹（武蔵工大）岩切宏友（九大応力研）、岩前 敦（京大院工）、上田良夫（阪大院工）、江角直道（長野高専）、片沼伊佐夫（筑波大プラズマ）、門 信一郎（東大高温プラズマ）、菅野龍太郎（核融合研）、近藤公伯（阪大院工）、榎田 創（産総研）、重森啓介（阪大レーザー研）、篠原俊二郎（九大院総理工）、鈴木 哲（原研那珂）、妹尾和威（核融合研）、高杉恵一（日大量科研）、高橋栄一（産総研）、永岡賢一（核融合研）、服部邦彦（東北大院工）、林 康明（京都工繊大）、檜垣浩之（筑波大プラズマ）、増崎 貴（核融合研）、南 貴司（核融合研）、山内有三（北大院工）、山本 靖（京大エネ理工研）、山本 巧（原研那珂）

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

プラズマ・核融合学会誌第81巻第9号

編集・発行

〒464-0075 名古屋市千種区内山3丁目1-1 4階

社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会

Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3485

E-mail: jspf@nifs.ac.jp URL: <http://www.jspf.or.jp/>

印刷 株式会社荒川印刷

2005年（平成17年）9月25日

定価1,365円（本体1,300円）

本誌に掲載された寄稿等の著作権は（社）プラズマ・核融合学会が所有しています。

編集委員会開催日について 当学会誌の編集委員会は原則として、毎月、第1金曜日に開かれています。但し、第1金曜日が休日あるいは5日以降の場合はその前週の金曜日に開かれます。